

坂の上通信

令和二年九月十九日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

感染防止 授業も工夫

飛沫・接触を避ける取組

コロナ禍の中で、現在は全員が前を向いた二斉講義型授業が基本となっている。他者との接触が多い実技の授業では、さまざまに工夫を凝らしてこの難局を乗り切ろうとしている。いくつかの教科に話を聞いた。

音楽の授業では、取り組めなくなったものが二つある。一つは合唱、もう一つはグループトークである。どちらの例えは振り返りは個人で行うようになった。



マスクをして発声の少ないキーボードの課題に取り組む

「他者と価値観や見方を共有し理解し合う機会が減ったことは、やむを得ないこととはいえ残念だ」と音楽の宮田先生は語った。

現在、音楽の授業で主に行っているのは、感染の危険性が比較的低いギターやピアノといった楽器演奏や、音楽史の学習である。とはいえ楽器もそのつど消毒する必要がある。

家庭科も、以前は意見交換などグループ活動を中心としていたが、休校明けの6月以降、講義形式の授業が増え、二人組のペアワークに止まっている。

また実習においては授業前の手洗いやアルコール消毒を徹底している。調理実習では、自分で作ったものは自分で食べる、時間差を作って調理する、人数を15人以下にするなどの対策がとられている。

学校の「顔」にインタビュ―



今回は、1年3組担任で美術科の鈴木先生にお話をうかがった。

「なぜ美術の教員になられたのですか?」
小さい頃から絵を描くのは好きでした。教

育実習も楽しくて、就職活動では色々な会社を受けましたが、やっぱり好きなことを仕事にしたいと思い教員になりました。

「趣味はなんですか?」
コロナの自粛期間中に、大嫌いだっただ料理に目覚めました。得意な料理はまだなくて勉強中です。

最後に、美高生に一言お願いします。
素直で明るい子が多いと思います。コロナ禍の中ですが、前向きに頑張りましょう!

一部の種目は実施困難

体育も接触が多い教科だ。例年9月に実施される体育祭は中止となり、規模を縮小した体育大会へと変更を余儀なくされた。

授業ではバスケットボールなど接触のある種目の実施が難しくなっているほか、ペアでの運動も控えている。バドミントンなど接触の少ない種目を採用するとともに、集合隊形の間隔を広くし、用具の消毒、体育館の換気などの対策を行っている。



時間差で行う実習(右)と間隔を保って行う種目(左)



歌は世につれ

歌は世につれ世は歌につれ。歌は、時代のアルバムです。

このコーナーでは、先生方の青春時代の思い出の一曲を、当時のエピソードとともに紹介していただきます。

アーティスト	ピリジョエル
曲名	ピアノマン

マスク姿でオープンスクール

9月5日(土) 中学生を対象としたオープンスクールが開催され、説明会や体験授業、施設・部活動見学などのイベントが行われた。

新型コロナウイルス感染対策もとられ、例年とは違い、マスクの着用・手指のアルコール消毒・ソーシャルディスタンスの確保など、多くの感染対策がとられた。

希望者対象の体験授業は、国語・数学・理



感染対策を施しての受付(上)と、一部を着席禁止にした講堂(下)

に音楽や芝居などの催しがあちこちで開かれており、町の広場で大道芸人が芸を披露したりストリートミュージシャンが思い思いに演奏していました。その広場で聞いたのがこの曲で、晴れ渡ったスコットランドの空に響く歌声が印象的でした。以前から好きな曲だったので、それ以来、聞きたびにイギリスの空を思い出します。

科・社会・英語・保健の6教科で行われた。また個別相談所も開かれ、生徒会役員も相談相手として対応した。今回参加した中学生にインタビュ―を行ったところ「広くてきれいだった」という声が聞かれた。また「迷路みたいで迷った」など広い校舎に困惑している声も多くあった。



美・鈴・鈴・鈴

「新しい生活様式」という言葉を耳にするようになって久しい。人と距離を取り、手洗い・うがい徹底し、マスクをする。コロナウイルスという今まで遭遇したことのない脅威に対して私たちができる数少ない抵抗だ。世界的に見れば依然として感染者は増加し続けている。今まで対面を重視していた社会も、リモートがかなり定着した。一年前の生活を思い返すと、ウイルスの危険と背中合わせで生活していることをいやが上にも意識させられる。一方で、GOTOキャンペーンなど外出を促す取り組みも始まった。少なくとも臨時休業期間中よりは気軽に外出できるようになり、学校生活においてもテストやミニ文化祭などいくつかの行事を乗り越えた。しかしコロナを「克服した」と考えるには早すぎる。世界に目を向け、もう一度新しい生活様式の基本に立ち返り、手洗い・マスクなどを徹底するよう意識の見直しを図る必要があるのではないか。

(油田友菜)

編集後記

1年生だけで作成した新・新聞部です。今後とも愛読を。